

令和５年度 第１回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和５年度 第１回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和５年７月５日（水） 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 ６階 ６０２会議室
出席者	（委員） 榑原会長 薮副会長 青木委員 上林委員 西川委員 内田委員 安田委員 中井委員 西尾委員 （事務局） 岸本教育長 福井教育部長 上道教育部副部長 林口教育支援センター長 吉田教育総務課長 前田生涯学習課長 堀江教育支援課長 吉川学校改革推進課長 大槻学校改革推進課担当課長 岡野学校教育課長 土井学校教育課副課長 天花寺学校教育課総括指導主事 坂上学校改革推進課総括指導主事 田中学校教育課学校教育指導主事
配付資料	令和５年度第１回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 令和５年度「中学校ブロックジョイントプラン」構想図

１ 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局自己紹介
- ・設置要項に基づき、会長に榑原委員、副会長に薮委員を選出
- ・榑原会長挨拶
- ・薮副会長挨拶

２ 報告及び協議事項

（１）報告１ 令和４年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要

資料６頁に沿って事務局より説明

報告１についての質問・意見等と応答

（会長）

ありがとうございます。では、新しい委員の方もおられるので、昨年度の様子を、委員を継続されておられる方から、いかがでしょうか。

（委員）

視察を毎年、楽しく参観させていただいています。私は宇治黄檗学園の地域なのですが、宇治黄檗学園のような一体型とは違う、分散型の学校が工夫して取り組んでおられる様子を楽しみにしています。

（委員）

私は小学校３年生まで小倉小学校に在籍していたこともあって、興味深く小倉小学校を視察させてもらいました。当日は、ＮＰＯの方が劇を教えておられて、それがグループごとに全部異なったシナリオで上手に指導しておられ、子ども達も楽しく取り組んでいました。学校の勉強だけでなく、先生ではない他の大人から教えられる体験はとても良かったと思います。

（会長）

「地域とつながる」をテーマに、外部資源の活用ということだと思います。

それでは、次に、「到達状況の報告」をお願いします。

(2) 報告2 令和4年度小中一貫教育の取組到達状況報告

資料7頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは学校の立場からどうでしょうか。

(委員)

コロナの間は、「進めたくても、進められない」「計画はするが、中止となり実現できない」状況でしたが、昨年度から、少しずつ動き出しています。しかし、令和2年度、3年度のブランクから、令和元年度の取組を確認する一年間でした。感じたことは、ブランクはあったけれども、それぞれの学校が9年間を意識して取り組み、意識が定着していると感じました。

(会長)

ありがとうございます。それでは委員はどうでしょうか。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったとおりです。去年は、校長から「やろう」とハッパをかけながら進めていました。その甲斐あって、合同研修として授業参観、また小学校6年生の中学校体験学習も久々に取り組みました。もちろん、密にならないよう縮小しながらですが。

(会長)

委員はどうでしょうか。

(委員)

昨年の入学生、今の中学2年生ですが、今年の中学1年生とは、やっぱり違いました。今年の中学1年生は、昨年度のプロックの教員が公開授業を参観したり、本校での児童の授業体験をしたりしている違いだと思います。西小倉中学校は、令和8年度に小中一貫校になります。今後は、小中の教員の同僚性を高めていくことで効果が上がるように感じます。

(会長)

ありがとうございます。

(会長)

イメージはいかがでしょうか。

それでは、3「令和5年度の小中一貫教育の取組状況について」、事務局からお願いします。

(3) 報告・協議3 令和5年度小中一貫教育の到達目標

資料10頁に沿って事務局より説明

報告・協議3についての質問・意見等と応答

(会長)

たくさんありましたが、ご質問等をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。まず、私からですが、コロナが5類に引き下げられて、制限が大きくなかったのですが、その上で昨年度の大きな違いはどのあたりでしょうか。

(事務局)

コロナの影響で、大きく後退しているのですが、まずはコロナ禍前へのつなぎ直しが主となります。その上で、新たな取組、新たな形に進めていくこと、具体的には、これまでの対面形式とICT化・オンライン形式でのハイブリッドかと考えています。

(委員)

ラーニングコーディネーターの大半が入れ替わってと説明がありましたが、具体的にはいかがでしょうか。

(事務局)

10ブロック中7ブロックが新しいラーニングコーディネーターとなりました。現在、過渡期かと思われます。

(委員)

新しいコーディネーターが悪いというより、多くの方がコーディネーターを経験することが、今後効果としてあがってくるのではと思います。そんなメリットも大きいかと。

(委員)

初歩的なことを質問しますが、ラーニングコーディネーターの役割とは一体どのようなことなのでしょう。

(事務局)

もともとはチーフコーディネーターで、児童生徒交流や教職員の交流を中心に調整を行っていました。その後、本市の学力が課題となり、全市で学力課題に取り組もうとラーニングコーディネーターに変更となりました。交流に加えて、研修や教育課程等、学力向上の取組を中心に取り組んでいます。

(委員)

現在、子どもが小学校4年生で中学校のことはわかりませんが、私が子どもの頃、小学校ではできる方だと、テストで勉強をしなくても満点がとれていましたが、中学校に入学して同じように中間テストを受験したら、とんでもない点数が返ってきて、父親にひどくしかられたことを覚えています。

9年間をつないで学力向上を図る一貫教育の取組で、小学校在籍の時から自然とスムーズに理解できるといいと、自分の体験からですが思いました。

(会長)

小学校と中学校では、連続しているようで、実はそうでない部分があるのが教育なんですね。違うのだけれど小学校と中学校がお互いに理解する、そんな取組になります。小学校からスムーズにつながることもあるけれど、小学校と中学校の違いを理解すること、そのあたりの躰きも分かってきたということです。

ご意見が出たということで、小中の考えの違い、何でもつながるのではなく、違いを踏まえながら、小中一貫教育の理解を進めていけばいいですね。

(委員)

私は、青少年健全育成協議会なので、到達目標でいえば(4)の「家庭・学校・地域でつくる育ちの輪」にあたります。私たちの地域では、4年ぶりに夏祭りを開催します。今年から、クリーン運動を、大人と小中学生とで実施しています。縦割り活動を地域で行っていると、本当に子ども達の充実した顔があります。本年度も、地域行事を通して、こどもたちの交流、子どもと大人の交流を進めていきたいと思っています。

(会長)

地域学校協働活動というやつですね。では、学校側から見て(4)の「家庭・学校・地域でつくる育ちの輪」についてはいかがでしょうか。

(委員)

私は、管理職として、御蔵山小、小倉小、宇治小と違うブロックを経験しましたが、ブロック、ブロックで地域とのつながりが全然違います。今は、宇治黄檗学園で、本当に「地域の皆さんに支えられて」を実感しています。御蔵山小では、新しい家が建って、地域のコミュニティも学校も一緒になって作っていったあげないといけなかったです。ただ、子ども達への思いはどの地域も同じ。子ども達の幸せのため、それぞれがCSを使いながら地域づくりを進めていければと思います。

(委員)

もう、学校だけで教育する時代ではない。ですが、中学生がたまっていると、地域の方が怖がって、学校へ電話してこられます。でも、中学生も変わってきています。ぜひ、声をかけてやってほしい。きっと素直に聞くとおもいます。学校としては、中学生をできるだけ外へ連れ出して、安全をアピールしたいとおもいます。

(会長)

生徒指導提要も改正されました。教育は、「生徒が主権者、主体者となって」と変化しています。生徒指導を担当しておられる委員は、そのあたりいかがでしょうか。

(委員)

西小倉中学校では、地域の方に学校へ来てもらう「地域の先生」から学ぶ機会があり、地域の方から応援してもらっていることを、中学生が実感しています。だからこそ、地域に返していくことが大切だと言っています。地域の方に褒めていただくことは、中学生にとってもとても嬉しいことです。

(会長)

子どもが主役なので、(中学生は)ぜひアピールをお願いします。それでは、次の4「小中一貫教育についてのアンケート」についての報告ですね。よろしくお願いいたします。

(4) 報告・協議4 小中一貫教育についてのアンケートについて

資料2「令和4年度小中一貫教育についてのアンケート」により事務局より説明

※宇治市ホームページ、「小中一貫教育アンケート」のページに掲載

報告・協議4について質問・意見等と応答

(会長)

それでは、今後より良いデータ活用であるとか、分析等について、ご意見はいかがでしょうか。

(委員)

8頁で児童が中学生生活に不安を感じている質問で、「新しい友達とうまくいくかどうか」という質問での値が大きくなっている。特に一体型に比べて分離型が非常に大きくなっている。顔の見えない他の小学校の児童と一緒にすることへの不安ということになる。

(会長)

一方で、「授業が長い」や「校則が厳しい」などは、一体型が大きく分離型を上回っている。先輩からの情報の影響ですね。

(委員)

保護者としては、子ども達の保護者に対する声を聞きたい。地域の「おっちゃん」「おばちゃん」が学校に出入りしていることをどう思っているのか聞いてみたい。

(委員)

地域懇談会が本年度復活しそうですが、コロナ禍前と同じことができるか、100%戻せるのか心配しています。笠取小学校では、必ず出る質問があります。「少人数の笠取小学校が、大きな木幡中学校へ入学して大丈夫か」、実は、子どもだけでなく親も心配しています。ですが、笠取小学校の先生方は、小小連携を実施し、子ども達に寄り添い向き合って鍛えてくれています。

(委員)

小小連携については、笠取小学校、笠取第二小学校の子ども達は、小学校1年生から、まる1日、木幡小学校や御蔵山小学校の同学年の子ども達と一緒に勉強する機会を設けています。実は、これは小中一貫教育が始まる前から始めています。

(会長)

アンケート項目の検討もありますが、それ以前からある取組も幅広く取り入れていくことも大切ですね。

(委員)

宇治市の学校では、小学校と中学校が学校だよりをお互いに配布しています。それを保護者が見て、中学校の合唱祭に、小学生が招待されたり、小学校保護者が参観したりしていました。

(会長)

地域に応じて、広い意味での小中一貫教育になれば良いですね。

(事務局)

別紙で学校行事・ブロック行事を掲載しています。

先ほどの、笠取小、笠取二小の行事として、三校交流も掲載しています。

(会長)

うまく、アンケートでつかまえられると、良いデータがとれるかもしれないので、ぜひクロス分析をしてみてください。例えば、「中学校に不安をもっている子どもや保護者」と子どもなら「学校が好きか、苦手か」、保護者なら「学校へ何回行ったか」等と考えると、もう少し、傾向が看取ることができ、対策も出てくるのではないかと思います。

(事務局)

今後検討して参ります。

(部長)

保護者の回答数を増やす良いアイデアはないでしょうか。

(委員)

例えば、参観の時に、子どもと一緒にアンケートに答えたりすると、親にとっても（子どもと一緒に取り組む）メリットがあるのではないのでしょうか。

(委員)

タイムリーなタイミングで実施できればいいのに。それにしても3分の1の回答は寂しい。

(会長)

結果の公表はどうなっていますか。

(事務局)

宇治市の教育だより、ホームページで公表しています。

(委員)

アンケートは、誰が書いたかは分からないのですか。

(事務局)

はい、無記名となっております。

(会長)

ぜひ、学校だよりなどでもアナウンスしてください。

回答率の低い学校の共通傾向はありませんか。

(事務局)

現在の方法だと回答率の低い学校の共通傾向までは分かりません。しかし、校長会からも学校毎のアンケート結果、データがほしいという依頼もありますので、今後検討していきたいと思います。

(会長)

それでは時間も迫ってきましたので、令和5年度の協議会の活動について、事務局からよろしくお願いいたします。

(5) 報告・協議5 令和5年度小中一貫教育推進協議会の活動について（案）

資料13頁に沿って事務局より説明

報告・協議5について質問・意見等と応答

(会長)

質問はありますか。視察は、何回行っても、旅費は1回分しかでないということですが、私の気持ちとしては、ぜひ複数回参加していただければと思っています。

(会長)

それでは、6のその他に参りますが、いかがでしょう。資料にある「西小倉地域の小中一貫教育」についてでしょうか。

(6) 報告・協議6 （仮称）西小倉地域小中一貫校について

進捗状況について事務局より説明

報告・協議6について質問・意見等と応答

(会長)

それでは、ご質問はありますか。

特に無いようですので、本日の案件は全て終了しました。では、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

＊事務連絡事項の説明＊

3 閉会

福井教育部長より閉会の挨拶